

館林市子ども・子育て会議委員委嘱状交付式及び
令和3年度第2回館林市子ども・子育て会議 議事録【概要】

- 1 日 時 令和3年10月26日（火）午後3時～午後4時30分
- 2 場 所 館林市役所501AB会議室
- 3 出席者
【館林市子ども・子育て会議委員】 15名
森会長、落合副会長、津久井委員、角田委員、大野委員、三田委員、平田委員、山本委員、原委員、鎌田委員、小暮委員、青木委員、田端委員、荒木委員、平林委員（以上名簿順）
【多田市長】
【事務局】 15名
保健福祉部 : 中里部長
こども福祉課 : 木村課長、鏡児童センター長、前原保育係長、石井係長代理、
妻神子育て支援係長、石田
健康推進課 : 野澤課長、島田母子保健係長
学校教育課 : 小林課長、荒川学事係長
生涯学習課 : 岡戸課長、山口青少年係長
教育総務課 : 武井課長、折原総括係長
【傍聴者】 なし
- 4 委嘱状交付
多田市長より、委員15名へ委嘱状を交付
- 5 あいさつ
多田市長よりあいさつ
- 6 自己紹介
名簿順に委員から自己紹介
(市長退席)
- 7 会長・副会長の選出
事務局案として会長に学識経験者の森静子様、副会長に館林市区長協議会理事の落合進様を前回からの引き続きということで提示。
委員より異議がなかったため、事務局案のとおり会長及び副会長が決定
- 8 議 事
 - (1) 館林市子ども・子育て会議について
 - (2) 館林市子ども・子育て支援事業について
 - (3) その他
- 9 配布資料
 - ・会議次第
 - ・館林市子ども・子育て会議委員名簿
 - ・館林市子ども・子育て会議について（資料1）
 - ・第2期館林市子ども・子育て支援事業計画令和2年度実績について（資料2）

- ・館林市子ども・子育て会議条例
- ・第2期子ども・子育て支援事業計画一式
- ・すくすくジャパン（追加資料）
- ・市民活動オンライン講座（追加資料）

10 会議内容

- (1) 館林市子ども・子育て会議について
事務局より説明

- (2) 館林市子ども・子育て支援事業について
各事業について、事務局より説明

【質疑応答】

会 長：すくすくジャパンについて説明したい。10の事業が掲載されているが、これは国から各自治体で行って欲しいと示された事業である。これに対して館林市が組み立てて行ってきた事業の結果が先ほど説明されたものである。

委 員：実績報告は良くできている。乳児家庭訪問全戸訪問事業について未把握者が0人というのは素晴らしい。訪問した際に気になるご家庭があった場合には、情報提供いただけるとありがたい。

委 員：放課後子ども教室が本年度1施設増えたのは、とても喜ばしいことである。放課後子ども教室によって放課後児童クラブの人数が減っていき、国が推奨する定員になることが理想的と考えている。

委 員：障がい児の保育を行っているため、現在の保育園や認定こども園でどの程度の障がい児を受け入れているのかが分かればありがたい。

委 員：市からの委託を受けて、子どもの総合相談窓口を開設しているが、実績はどこに載っているのか。その回答を受けて、市の考え方を聞きたい。

事務局：今回の資料は、子ども・子育て支援法に基づいた事業の実績となっている。子どもの総合相談窓口は、その法律上には記述が無い市独自の事業として行っているものとなる。

委 員：先ほど国の計画にはないものだと説明があったが、市が作成した子ども・子育て支援事業計画に記載があり、数字表記があるものだけを実績報告とするのはいかがなものか。

会 長：預からせていただきたい。開設の際には基調講演を行った経緯もあるので、その後どうなったのか私としても気になっている。

委 員：市がこれだけ子どものための取り組んでくれているのかを知ることができて参考になった。館林市も今後子どもが減る傾向になるが、子ども達の健やかな成長を見守っていきたい。

委 員：実績報告の資料には具体的な人数等も書いてあり、とても参考となるものであった。幼稚園は認定こども園化に向けて進めている。今後も意見交換しながら参考としていきたい。

委 員：養育支援訪問事業について、各家庭を訪問し小学校と情報交換しながら動い

ているので助かっている。放課後こども教室について、子どもの居場所づくりとして広がればありがたい。利用者支援事業について、かるがも相談室と子どもの総合相談窓口とでは、どのような違いがあるのか。

事務局：利用者支援事業について、館林市では母子保健型で取り組んでいる。妊婦健診から就園前の3歳児健診までの子どもを中心に行っている。家庭を支援するという意味で対象としては小学6年生までとしている。

委員：この事業で子どもの相談が広がっていけば良いと考えた。ここに相談すれば他に繋いでもらえるという場所があるとありがたい。

委員：こども福祉課保育係で障がい児の件で話をした際、把握しているのは認定を受けている子どもだけとの回答であった。子ども達のことや保健センターとの連携等も考えるとある程度把握しておいてほしい。

会長：発達障がいの子どもの多くいるのか。

委員：いるが、保護者が認めたくない場合もある。その子どもにとって通常保育が良い環境といえるのか判断が難しく、就学の直前になって直面するケースもある。

委員：館林市の子ども達は様々な方に見守られて大きくなっているということを感じた。これからも皆様からご意見をいただきながら勉強していきたい。

委員：保育園の様々な支援を行っていることを知ることができた。幼稚園は今度認定こども園化を進めて行くということだが、保護者としては子どもが通いやすい環境を作っていってほしいと思う。

委員：保護者として、コロナ禍においても保育園や小学校へ子どもを預けられる環境があったので、安心して仕事をする事ができてありがたかった。学童には特別支援に通う子も放課後デイと併用しているが、子ども同士は楽しそうにしている。

委員：妊婦から乳幼児、小学生まで、また昼間から放課後まで、これだけのサポートをしていただいております、働いている保護者としても安心できる環境にある。子ども達が明るく過ごせることが大切なことであると思う。

委員：子どもが育ちやすいまちと言いながら子どもが減っているのは良くない。一方で把握していない乳幼児がいないことは素晴らしいことであると思う。

副会長：区や地区の子ども達のために直接支援、努力してくださっていることについて深くお礼を申しあげたい。計画と実績に差があったのであれば、その理由を説明していただけるとありがたい。

会長：ご提案いただいたことは一つ一つがとても大切なことであるので、市の職員は受け止めていただき、次の会議には良い流れができるようお願いしたい。

(3) その他
特になし

(4) 閉会